

代表質問(6月21日) 江上博之議員

名古屋城天守閣の木造復元よりも 福祉・くらし優先の市政運営を

21日の代表質問にたった江上博之議員は、4月の市長選で再選した河村たかし市長に対し、「市長に投票した市民は、有権者の4分の1すらない」と指摘。今後4年間、市民の声をよく聞き、市民に丁寧な説明責任を果たして市政運営にあたるよう求めました。

名古屋城整備は民意を聞くべき 「2022年木造復元」に市民合意なし

河村市長は市長選直後の記者会見で「(選挙は)『天守閣木造化に対する住民投票』のような意味合いがあった」として、自らの「2022年12月完成の天守閣木造化」提案に、市民が合意したかのような主張を展開。しかしマスコミの世論調査(右図)では、市民の6割以上が市長提案に反対の意志を示しています。

江上議員は「市長提案に市民の合意がないことは明らか。この事実を真摯に認めるべきだ」とたたきました。

これに対し河村市長は「市長選で合意はいただいた」「肅々とすすめるのが市民のためになる」などと市民の声を受け止めようとしませんでした。

「収支計画」はすでに破たん

市長提案は建設費、維持費等を含め50年間で1000億円以上、最低でも毎年20億円ずつ支出する計算。しかも50年間毎年366万人入場するのが前提です。

江上議員は、この間の市の議会答弁が「税金投入しない」から「税金投入しないように努力する」に変わってきたのは問題だと指摘。「市長は100億円の寄付金募集を言い出したが、今までの収支計画の破たんを認めるのか」と追及しました。

河村市長は「過大な見込みとは思っていない。努力はせないかん」と述べるにとどまりました。

魅力あるまちにふさわしい名古屋城とは

江上議員は、魅力ある名古屋にふさわしい名古屋城のあり方について二つの角度から提案を行いました。

①**石垣整備を最優先に**——名古屋城が特別史跡に指定されているのは、石垣や堀などが「本物」で文化的価値が高いから。市の有識者会議でも石垣の整備を優先すべきだと

の声があがっています。江上議員は「有識者の声を真摯に受け止め、石垣を最優先に解決すべきだ」と提起しました。

②木造復元計画を見直し、市民の意見を聞く場をつくれ——

江上議員は、名古屋の歴史や未来、まちの見どころがわかる「情報発信施設」として現天守の耐震・老朽化補強を行なうことこそ必要ではないかと提起。木造復元構想を見直し、名古屋城のあり方について市民意見を聞く場を設けるよう求めました。

これらの提案に河村市長はまともに答弁しませんでした。

魅力あるまちに必要なのは、 福祉・くらしの拡充

江上議員は、魅力あるまちづくりは、市民の思いを踏まえて、福祉・暮らしを守ることが何よりも大切だと力説。具体的に四つの施策を市長に迫りました。

敬老パスの私鉄利用導入を——市長選で河村市長は「名鉄やJR等への利用導入を検討」と公約。江上議員がただすと、「(拡大の方向で)よう検討する」と答えました。

18歳までの医療費無料化を——中学生までの医療費無料制度の「継続・拡大検討」を公約した河村市長。江上議員の追及に「(拡大の方向は)その通り」と答弁しました。

国民健康保険の減免制度継続を——国保の都道府県化で運営主体が愛知県になっても、市独自の減免制度は継続されるのか？江上議員が問いただすと、杉山勝・健康福祉局長は「これまでの減免制度も含め保険料水準から大きな変化が起こることがないよう努める」と答えました。

市立幼稚園の閉園中止し、利用者の声を聞け——市は市立幼稚園3園の閉園を計画。突然知らされた保護者から怒りの声があがっています。江上議員は閉園計画の即時中止を主張。しかし河村市長は閉園を否定せず、「教育委員会は丁寧に説明をせないかん」と述べるにとどまりました。

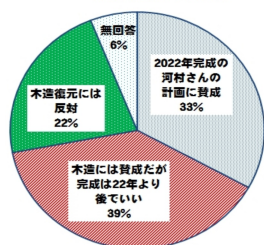
名駅前再開発の「アセス外し」は市民の声奪う

名古屋駅前再開発に絡み、市が同地域を環境アセスの対象から外した問題で、江上議員は「環境面で市民の発言の場を奪うものだ」と撤回を要求。河村市長は「東京、横浜に伍する建物をつくる必要がある」などと答弁しました。

憲法尊重擁護義務に対する市長の認識

江上議員は、憲法9条に自衛隊条項を追加するとした安倍首相の発言について、河村市長の認識を問いました。市長は「何ら擁護義務に反するものではない」と述べました。

天守閣の木造復元について
2017年4月市長選での出口調査
(中日新聞2017年4月24日)



木造復元の収支計画について
2017年4月市長選の中間調査
(中日新聞2017年4月17日)

